

大かほ下 議会だより

No. **164**

令和6年
6月定例会
7月20日号



議会だよりのページ

・Topic 1

6月定例会で決まったこと
主な審議結果 P2-3

・Topic 2

委員会の審議状況
常任委員会レポート P4-5
特集 町民インタビュー P6-7

・Topic 3

議員から行政に
一般質問 P8-15



補正 予算

一般会計補正 4472万円 総額149億7881万円に

可決
全会一致

主な会計

一般会計	4472万円(総額149億7881万円)
国民健康保険	368万円(総額 24億9998万円)

【支出】

・予防接種および感染症予防	3679万円
・林野火災に係る消防団出動	511万円
・旧一中残土運搬業務(二井宿豚舎跡地へ)	350万円

主な事業



- Point 1** **スマートIC事業**
町道上在家上寝鹿線外道路改良工事
(変更) 軟弱地盤による盛り土の増加により変更するもの
1389万円追加→総額1億8549万円

- Point 2** **百野橋補修工事**
(変更) 橋の老朽化が予想より進んでいたため、新たに歩道用の
仮設通路を設置するもの
938万円追加→総額9738万円

- Point 3** **スマートIC事業**
町道一本柳山崎線舗装新設工事
(新規) スマートIC事業に伴い舗装新設工事を行うもの
【契約先】羽山総合建設株式会社
【金額】5995万円

- Point 4** **下町地区調整池整備工事**
(新規) 近年の大雨による水害対策として糠野目下町地区の住宅
団地において、調整池を整備するもの
【契約先】株式会社高橋建設
【金額】7128万円

【財産取得】
新庁舎の開庁に合わせ、エントランスやホールなど
に設置する町産木材を使用した家具を購入するもの
【購入先】ふみや文具店
【金額】4279万円

【報告】

- ・予算継続費繰越 **2億 364万円**
- ・予算繰越明許費繰越 **3億 4687万円**

**6月
定例会**

会期
6月11日(火)～21日(金)

提出議案等は9件

報告	2件
補正予算	2件
契約	4件
財産取得	1件

**いずれも
原案どおり可決**

委員会活動レポート

産業 厚生

有機農業

- ①令和6年度は、有機農業関係団体と学校給食会で契約し、直接流通する。集荷、精米、運搬は学校給食会で行う。(県内初の事例)
 - ・今年度の特別栽培米は、1俵あたり玄米で2万円(税別)約3カ月間30俵ほど実施予定。
- ②産地づくり推進事業計画は次のとおり。
 - ・生産者、商工業者消費者による検討会を外部機関のアドバイザーを活用して6月実施予定
 - ・除草作業の省力化
- ③今後の課題としては、自給野菜組合に有機農産物の取り組みが進められる方策を検討する必要がある。
- ④今後有機農業に対する取り組み状況をホームページで



情報発信していく。

空き家対策

- ①空き家の問い合わせ状況は、空き家の改修について1件、危険空き家に



- ②依然として次のような1〜3月度と同じ課題が生じている。
 - ・現在の組織体制では、空き家全般を担当するのは厳しい状況
 - ・不動産業者と連携して、空き家の売買が進むよう改善されているが、空き家バンク登録物件を増やす取り組みや、管理不全空き家を特定空き家にしにくい取り組みを進める必要がある

については2件。

放課後児童クラブ

- ①現在、待機児童はなし。
- ②運営主体、支援員との定期的な連絡会を年3回ほど設けている。
- ③老朽化やトイレが一つしかない施設がある。今後の対応の方向性を示す必要がある。
- ④学校と施設が連携し、情報の共有を図る。
- ⑤防災計画のもと、定期的な避難訓練、防災備品の管理、耐震性調査が必要。
- ⑥将来的に、学童保育の小学校空き教室活用の方向性を検討する。
- ⑦各施設を通して利用児童の保護者へアンケートを実施した。なお、アンケート結果は集計し分析する。



委員会活動レポート

総務 文教

高島高校視察

- 【日時】6月11日(火)
- 【内容】高島高校に対する支援については県立高校であるため、町ができる支援は限られてくる。そこで、高校の魅力化につなげるため、高島高校の取り組みに対して視察を行なった。校長より「補助金等の支援をいただき感謝している。就学支援金について発信していくことが何より大事であるので、今後も支援をお願いしたい」とあった。また、高校独自の取り組みで、令和5年度から県外生徒の募集を行っており、生徒が増えてきたら下宿等の要望も増えてくると思った。各委員から、質問や意見などが多く挙げられたが、今後も継続して効率的な支援を行っていくため引き続き現状を把握して、魅力化につなげていきたい。



各地区公民館意見交換会

- 【日時】7月1日(月)
- 【内容】まちづくりについて調査していくにあたり、各地区公民館の現状と課題を聞く意見交換会を実施した。各地区において課題となっているのは、アフターコロナの影響により、事業に対する参加者が減ってきていること、運動会をはじめとした事業に対して、自治会単位で参加できないことなどが挙げられた。また、後継者不足などから、役職を引き継げる若い人が少ないといった課題も挙げられた。また、熱中症等の観点から事業実施の可否を判断せざるを得ない状況にあり、実施するスタイルを検討して、何とか地域の交流の場となるよう存続を検討している。現状や課題を把握する機会となった。各地区公民館においての役割は地域性が色濃く出てくるが課題や現状は大きな開きがなかった。今後も議論を重ね結果を公表できるように引き続き調査をしていく。



▲和田地区独自事業の山野草展

広報 広聴

町民インタビュー 始まりました!

- 【日時】7月17日(水)
- 山形県町村議会議長会主催の研修会に参加。昨年の改選後、議会だよりの編集に初めて携わる議員が増えたことから、大変有意義な研修であった。読みやすく、分かりやすい議会だよりの編集に役立てていきたい。
- 【広聴部会】

部会長	木村 雅博
委員	直島 義友
	伊澤 良治
	武田 修
	菊地 英雄
	山本 義昭
	竹田 正樹
- 広聴部会では、より多くの町民の声を議会に生かすよう、町民インタビューを始めました。皆様の声を広聴部員がインタビューに伺いますので、今後もよろしくお願います。



特集

まちの声



町民インタビュー

聞かせておごえ!

高島の豊かさ



いのうえ あきら
井上 昭さん

高島地区
70代

わらび、たまねぎ、スナップエンドウ。最近の頂き物だ。「野菜が高い」と言われるときも頂き物と庭の家庭菜園で結構間に合う。

生産されても商品とならないで消費されるこれらの物は「経済成長」とか「活性化」の指標となる数値には全く関わらないので、この町がどれほど豊かなのか、実はよくわからないのではないかと思います。

高島町にすでにある、豊かさに気づき生かしていくことを期待する。

インフラの計画的な整備



おおはしくみこ
大橋久美子さん

糠野目地区
60代

町内のいろいろな場面で、デジタル化が進み便利になっていく一方で、取り残されている中高年も多くなっています。そこで若者の力を借りて、ちょっとした困りごとに対応してくれるデジタルサポーター的な人が身近にいてくれたらいいなと思います。

そして交流が生まれ、今度は中高年が若者の手助けを行い、お互いに頼り合える優しく住みやすいまほろばの里になってほしいと思います。

広い世代が盛り上がる町へ



たけだ まさゆき
竹田 眞幸さん

屋代地区
30代

私は、出張型バーテンダーとして活動し、各種イベントにて出店しています。

高島町のイベントは春の桜祭り、青竹ちょうちん祭り等、出る機会が増えてきて、そこに若者やいろんな世代の人が集まってきて、高島町は盛り上がっているなあ…と感じています。お祭りやイベントを続けていただいていることに感謝しています。

「やしろの灯り」が8月に屋代地区公民館前の広場で開催予定です。小学生が灯りをともし、大勢の家族でにぎわいます。私も出店します。

大小問わずイベントを続けていただき、町内だけではなく、町外の若者も巻き込む工夫をしていただき、さらに盛り上がる町にしてほしいです。

●ちよこつとメモ●

コロナ禍があげてイベントの開催も多くなってきています。クラシックカーレビュー等も行われる予定です。

中高生の生活をより便利に



はしもと こうじ
橋本 幸さん

糠野目地区
40代

中学校の統合により、生徒の通学手段は自転車かスクールバスのどちらかになりました。春先の寒いみぞれの日や真夏の酷暑の日も自転車通学です。秋口の部活帰りの18時頃は辺りは真っ暗です。街灯もなく、助けを求める民家もない、田んぼ道を帰らなければなりません。子どもを送迎できる家庭だけではありません。高校生も同じです。安心して通学できるよう街灯の整備と電車通学する高校生のために駅までの通学時間帯のバス運行をお願いします。

図書館は月曜日休館ですが、月曜日は中学校の部活が休みの日でもあります。図書館を開館することで、自主学习に利用することができます。

子どもたちの安全、安心と子育てに奮闘しながら働く家族のために検討していただきたいと思います。

あんなこと こんなこと



空き家バンク事業について



さがえ きよし
寒河江 清さん

高島地区
60代

空き家は所有者の高齢化による転居等で今後も増加傾向をたどると思います。そのような中、空き家バンク事業はとても重要と考えます。しかし、空き家バンク事業の認知度はどうでしょうか？

住みたい田舎なのか？魅力ある町なのか？自治体と所有者と利用したい人をもっと自治体が主軸になってマッチングさせることが、移住事業の関連性を鑑みても重要と考え予算が減額されることはとても残念です。

また、景観を損なうことや倒壊による周囲の建物、人的被害の恐れ等の空き家対策も重視してほしいと思います。

●ちよこつとメモ●

空き家バンクの効果的な運用のため、運営形態の見直しやHPのリニューアルにより、町（県）外者からの問い合わせも増えてきています。

危険・倒壊空き家等に対する除去支援も行っています。

高島高校就学支援事業



とだ よしはる
戸田 嘉治さん

屋代地区
40代

町から支援があるのは知っていましたが、詳しくは知りませんでした。今回、支援の詳細な説明を受け経済的なメリットから、子どもの進路の一つとして考えたいと思いました。

ただ高校選択というのは、その後の就職を見据えてとなるので、経済的支援よりカリキュラムなどの中身が大切ではないかと個人的に思います。

また通学支援の内容も不便さがありますし、給付金ももっとあっていいと思います。支援内容が今後もっと充実される事を望みます。

地元に住む若者を増やすには



きむら あかり
木村 朱里さん

糠野目地区
30代

職住近接という言葉がありますが、特に若い世代では職場や趣味等に便利な所に住もうとする考え方が多いと思います。その選択の時期が進学であり就職です。就職先を増やすこともそうですが、将来を考える時期に地元を考える機会をつくることも大切だと思います。

具体的には、中学生や高校生の将来を考える時期に、地元で就職した先輩の話聞く機会をつくることで、地元就職を意識する人も増えるのではないのでしょうか。

●ちよこつとメモ●

町では昨年度、職業体験会「WAKUWAKU WORK in 高島中」を開催しました。地元で活躍する大人から魅力などを発信し、地元定着、地元回帰を図っています。

SNS 始めました!



二次元コード



高島町議会公式
Facebook



議会の動きなどタイムリーにお知らせします。フォローよろしくお願いします。

たけだまさき 議員 竹田正樹



人口減少に合わせた計画を

町長 必要に応じて見直しをしている

「人口減少に関する検証を加えて見直しを図っていく」と昨年答弁されたが、その後の計画策定等で見直したものは。

一例を挙げれば、急激な人口減少を抑制するための取り組みとして、子育て支援施策である家庭センターや病児保育施設の設置などは、今回の見直しにより加えた新たな取り組みとなる。

営農状況改善の 農業振興戦略は

厳しい営農状況を打開するための農業振興戦略は。



動画配信はこちらから

農地の集積・集約 生産基盤の強化を図る 機械・設備の導入支援 労働力の確保、所得の安定化を図る収入保険等の加入を複合的に推進することで、足腰の



▲広がる耕作放棄地

強い経営体を育成していく。

遊休農地を防ぐには、畑地化が必要。畑地化を促進するため、町が援助に思い切った予算を投じる意思はあるか。

畑地化を進める上ではある程度の予算は必要だと思う。大幅な予算は確保できないかもしれないが、町の全

体予算を見ながら、検討していきたい。

農業振興のために思い切った決断、予算を投じることはできないか。

食と農のまちづくりの部分では、町民の健康づくりの面も考慮し、全体予算を見ながら検討していきたい。

新型コロナウイルス 接種による健康被害

厚生労働省が発表した新型コロナウイルス接種による健康被害報告数等の把握は。

今年の5月31日現在、厚生労働省が公表した「健康被害認定件数」は7384件、「死亡一時金または葬祭料」の認定件数は596件となっている。死亡や重篤につながってしまった症状として心筋梗塞等が見られる

ようである。

予算編成で 見直した事業は

令和6年度の予算編成で、何を検証し、どう見直したのか。

和田地区公民館改築事業について、事業の緊急性や後年度の公債費への影響などを考慮し、年度間の財政負担の平準化を図る観点で7年度からの着手に事業を後倒しした。

マーケットを 招聘してはどうか

マーケットを当町に招聘してはどうか。

今後、事業実施にあたり、専門的人材の活用等を検討するとともに、職員自らがマーケティング的視点を持って業務に従事することができるとも必要と考える。

やまきよしあき 議員 山木義昭



千代田地区土地改良事業 期間の短縮を

町長 事業期間の短縮は難しい

受益者の高齢化が進んでおり、事業期間を短縮することでさらなる工事費の増高を抑えられるのではないかと

全体的に農地整備事業が増えている傾向で、県においても毎年予算を確保しながら実施しているが、追加での予算確保は難しい状況にある。町も起債を活用し予算を確保している。このような状況から事業期間の短縮については難しい。

地権者と耕作者の 負担を明確に

水利費の負担と小作料支払いを明確にすべきでは。

水利費の負担については土地改良事業期間でも土地所有者に負担いただくことになる。実際誰が支払うかは土地所有者と耕作者とで取り決めていくように。

小作料については、土地所有者と耕作者間で取り決めていただくことになる。

5年水張りルール への対策は

令和8年度には5年水張りルールの最終年度を迎える。畑地化促進事業への転換を含めた対応はどうか。

町としては、耕作者や農地所有者へ機会



▲千代田地区の改良前風景

を捉えて丁寧な説明を行っている。

また、個々の状況に合わせて相談を受け、対応のアドバイスを行っている。

独自の子育て 支援策を

奈義町の子育て支援メニューは豊富であり、当町で行っていない給付事業も充実して

一方、当町も奈義町と同様の子育て支援事業を数多く実施している。

民間活力、 ノウハウの活用は

岩手県紫波町に見る公民連携事業は、民間活力を利用したまちづくり手法である。財政的に厳しいのであれば、見習ってはどうか。

民間活力の利活用 公民連携の重要性を認識しており、今後の公共事業の推進や行政サービスの実施にあたり、紫波町のような先進的取り組みをしている自治体を参考にしながら民間活力の利活用を推進していく。

たけだまさき 議員 竹田正樹



人口減少に合わせた計画を

町長 必要に応じて見直しをしている

「人口減少に関する検証を加えて見直しを図っていく」と昨年答弁されたが、その後の計画策定等で見直したものは。

一例を挙げれば、急激な人口減少を抑制するための取り組みとして、子育て支援施策である家庭センターや病児保育施設の設置などは、今回の見直しにより加えた新たな取り組みとなる。

営農状況改善の 農業振興戦略は

厳しい営農状況を打開するための農業振興戦略は。



動画配信はこちらから

農地の集積・集約 生産基盤の強化を図る 機械・設備の導入支援 労働力の確保、所得の安定化を図る収入保険等の加入を複合的に推進することで、足腰の



▲広がる耕作放棄地

強い経営体を育成していく。

遊休農地を防ぐには、畑地化が必要。畑地化を促進するため、町が援助に思い切った予算を投じる意思はあるか。

畑地化を進める上ではある程度の予算は必要だと思う。大幅な予算は確保できないかもしれないが、町の全

体予算を見ながら、検討していきたい。

農業振興のために思い切った決断、予算を投じることはできないか。

食と農のまちづくりの部分では、町民の健康づくりの面も考慮し、全体予算を見ながら検討していきたい。

新型コロナウイルス 接種による健康被害

厚生労働省が発表した新型コロナウイルス接種による健康被害報告数等の把握は。

今年の5月31日現在、厚生労働省が公表した「健康被害認定件数」は7384件、「死亡一時金または葬祭料」の認定件数は596件となっている。死亡や重篤につながってしまった症状として心筋梗塞等が見られる

ようである。

予算編成で 見直した事業は

令和6年度の予算編成で、何を検証し、どう見直したのか。

和田地区公民館改築事業について、事業の緊急性や後年度の公債費への影響などを考慮し、年度間の財政負担の平準化を図る観点で7年度からの着手に事業を後倒しした。

マーケットを 招聘してはどうか

マーケットを当町に招聘してはどうか。

今後、事業実施にあたり、専門的人材の活用等を検討するとともに、職員自らがマーケティング的視点を持って業務に従事することができるとも必要と考える。

やまきよしあき 議員 山木義昭



千代田地区土地改良事業 期間の短縮を

町長 事業期間の短縮は難しい

受益者の高齢化が進んでおり、事業期間を短縮することでさらなる工事費の増高を抑えられるのではないかと

全体的に農地整備事業が増えている傾向で、県においても毎年予算を確保しながら実施しているが、追加での予算確保は難しい状況にある。町も起債を活用し予算を確保している。このような状況から事業期間の短縮については難しい。

地権者と耕作者の 負担を明確に

水利費の負担と小作料支払いを明確にすべきでは。

水利費の負担については土地改良事業期間でも土地所有者に負担いただくことになる。実際誰が支払うかは土地所有者と耕作者とで取り決めていくように。

小作料については、土地所有者と耕作者間で取り決めていただくことになる。

5年水張りルール への対策は

令和8年度には5年水張りルールの最終年度を迎える。畑地化促進事業への転換を含めた対応はどうか。

町としては、耕作者や農地所有者へ機会



▲千代田地区の改良前風景

を捉えて丁寧な説明を行っている。

また、個々の状況に合わせて相談を受け、対応のアドバイスを行っている。

独自の子育て 支援策を

奈義町の子育て支援メニューは豊富であり、当町で行っていない給付事業も充実して

一方、当町も奈義町と同様の子育て支援事業を数多く実施している。

民間活力、 ノウハウの活用は

岩手県紫波町に見る公民連携事業は、民間活力を利用したまちづくり手法である。財政的に厳しいのであれば、見習ってはどうか。

民間活力の利活用 公民連携の重要性を認識しており、今後の公共事業の推進や行政サービスの実施にあたり、紫波町のような先進的取り組みをしている自治体を参考にしながら民間活力の利活用を推進していく。

なおしまよしとも
直島義友 議員



動画配信はこちらから

独り暮らしの対策は

町長 生活支援体制を進めていく

問 高島町の孤独死の実態は。

答 正式な調査は無く町の実態は把握していない。

問 独り暮らしの増加の要因は何か。

答 社会情勢の変化と世帯の核家族化、平均寿命の延びも加わり、配偶者の死別などが増加の要因と捉えている。

問 独り暮らしの対策として、町はどのような手立てを行っているのか。

答 老人福祉相談員の配置、あんしん見守りネットワーク事業、配

問 食サービス事業のほか地域での支え合いの体制づくりを目的とした生活支援体制整備事業を進めていく。

答 食サービス事業のほか地域での支え合いの体制づくりを目的とした生活支援体制整備事業を進めていく。

問 独り暮らしの人に、民生委員・児童委員老人福祉相談員はどのような対応を行っているのか。

答 民生委員・児童委員は身近な相談相手として「つなぎ役」として活動している。老人福祉相談員は、独り暮らし高齢者宅を訪問し相談に応じるとともに社会参加を促している。

問 民生委員・児童委員のなり手不足への町の対応は。



▲地域での支え合いが大切

問 次の改選に向けてなり手を確保するため国や県と連携して取り組んでいく。

答 国や県と連携して取り組んでいく。

観光客を増やす手立ては

問 町内への観光客が増加しない要因は何か。

答 エネルギーや物価の高騰などによる消費控えがある。また、昨

問 二井宿峠の古道をハイキングコースに整備すること。二井宿地区に生息するゲンジボタル、カジカガエルをPRし事業化を図るべきと考えるがどうか。

答 二井宿峠の古道をハイキングコースに整備すること。二井宿地区に生息するゲンジボタル、カジカガエルをPRし事業化を図るべきと考えるがどうか。

問 子どもを預かる事業は「ゆうきの里さんさん」の稼働状況や費用対効果などを含めて考える必要がある。

答 子どもを預かる事業は「ゆうきの里さんさん」の稼働状況や費用対効果などを含めて考える必要がある。

問 和地区のゆうきの里さんさんとキャンプ場を利用し、夏休み子どもを預かる事業や、桜並木の適した場所での音楽会や撮影会のイベントで集客を図ってはどうか。

答 和地区のゆうきの里さんさんとキャンプ場を利用し、夏休み子どもを預かる事業や、桜並木の適した場所での音楽会や撮影会のイベントで集客を図ってはどうか。

問 町としては、これまで地区プロジェクトで積み上げていただいた事業を中心に、さらなる連携を図りながら事業の共催や宣伝・誘客活動を展開していきたい。

答 町としては、これまで地区プロジェクトで積み上げていただいた事業を中心に、さらなる連携を図りながら事業の共催や宣伝・誘客活動を展開していきたい。

いざわよしはる
伊澤良治 議員



動画配信はこちらから

小学校の今後の進め方と合意形成をどう目指すのか

町長 地域住民から幅広く考えを聞く



▲学習リーダー授業のようす

問 小学校の今後の規模や配置について保護者のみならず地域住民も含め、地域の将来や学校の在り方を話し合う場をしっかりと持つていくべきと考える。その様な場を重ね、

問 児童数の減少、校舎の老朽化など喫緊の課題解決や将来の学校の在り方を話し合うため、小学校の適正規模等について調査・検討を目的とした、教育委員会へ諮問の準備

子どもや学校、教育への理解を深め、地域内の合意をつくっていくことが大切である。今後の進め方と合意形成をどのように目指していくのか。

子どもの意見表明権を尊重して

問 こども基本法や子どもの権利条約でも、自治体で子どもの意見を聞く、尊重することを求めている。子どもたちが自分たちの学校や地域の未来にどんな考えを持っているか、「子ども意見表明権」を大切にすべきではないか。

答 子どもたちの考えを聞いたこと、意見を引き出すことが教育の良さである。小中学校の学びを経験した中学生の意見を伺う機会も考えられる。意見に対する責任の観点からも慎重に検討したい。

親の会結成の支援は

問 不登校の子どものサポート親同士が語り合う

答 不登校の子どものサポート親同士が語り合う

問 令和4年度の不登校児童生徒数は29万9千人と過去最高を数えた。高島町内小中学校の現在の不登校児童生徒の状況は。また、その中で90日以上不登校の児童生徒数はどのくらいいるか。特に、担任教師の指導支援体制が大切だと考えるが、どのような指導、取り組みがなされているのか。

答 令和4年度の不登校児童生徒数は29万9千人と過去最高を数えた。高島町内小中学校の現在の不登校児童生徒の状況は。また、その中で90日以上不登校の児童生徒数はどのくらいいるか。特に、担任教師の指導支援体制が大切だと考えるが、どのような指導、取り組みがなされているのか。

部活動の在り方は

問 高島中学校では部員数も多く、試合に出場できない部員がいる。一学校から複数チームが参加できるように関係機関に働きかけてはどうか。

答 高島中学校では部員数も多く、試合に出場できない部員がいる。一学校から複数チームが参加できるように関係機関に働きかけてはどうか。

問 大会の参加形態は主催団体が決定する。部活動は大会出場のほか、日々の活動で仲間と切磋琢磨し力を伸ばすことが大切である。顧問は各種大会や練習試合で多くの生徒が活躍できるように配慮に努めている。

木村 雅博 議員



動画配信は「ちちから」

学校給食の利用を通して有機農業の発展を

町長 有機農産物等の学校給食提供を予定している



▲食育教育の体験実習

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

佐藤 純子 議員



子宮頸がんワクチン接種の当町の今後の予定は

町長 個別通知等により周知を図る

子宮頸がんは年間約1万人が罹患し、3千人が亡くなっている。子宮頸がんは唯一ワクチンで予防ができると言われている。厚生労働省は2025年3月



▲定期検診とワクチン接種が重要

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

町内小中学校では豊かな食育教育の実践があるが、さらに地産地消を広く町民に伝えるにはどんな取り組みを考えているか。

動画配信は「ちちから」





動画配信はこちらから

高島スマートインターチェンジ 開通年度の見込みは

町長 具体的な開通予定は未定である

前町長によるスマートIC構想の表明から約10年が経過し、3年前の議会でも町から完成までの工程も示されている。

国からの提示も含め町が見込む供用開始年度はいつ頃になるのか。

事業に着手し4年目を迎えており、現在町道の盛土工事を行っている。

現地在軟弱地盤であることや、これからネクスコ東日本施工の工事が本格化することから、具体的な開通予定年度は未定である。

最終的な事業の見込み額は

令和2年度末の財政計画でスマートIC事業費を4億と見込んでいたが、すでに5億円以上に上っている。工事内容の変更や物価高騰等の要因は考えられるが、総額でいくらかになる投資的事業と見ているのか。

今後物価や人件費の高騰が予想される。現在、町施工の全体事業費として、約7億から8億円の費用を見込んでいる。

企業誘致に至る進展状況は

スマートICの整備効果を生かし、西町西工業団地の拡張整備



▲早期完成が期待される高島スマートIC

世界的なプラスチックごみ汚染等の課題に対応し、プラスチックを資源として循環させる法律が2年前に施行された。容器包装以外のプラスチック製品は、これまで可燃ごみとして焼却しているが、今後は市町村が資源として活用させる努力義務があるため、町や置広としてどういった分別方法等を検討しているのか。

置広では先進地を参考に、今年度から製品プラスチックの分別回収の実施に向けて検討を始める。

当町での回収方法については、こうしたプラスチックの分別回収にあたり、分別の種類が増えれば町民への負担や混乱を招くことも考えられることから、わかりやすく、対応しやすい制度づくりに今後取り組んでいく。

プラ製品の新たな分別方法は

西町西工業団地拡張の整備時期は、地元地権者からの整備に向けた総意を得られてい

と企業誘致を並行して進め、地域経済の活性化および若者が働ける場の確保を目標に取り組んできたはずである。その企業誘致に至る進展状況はどうか。

ないため、整備計画のスケジュールは立っていない。ただし、並行して関係課で構成する工業団地開発・企業誘致検討部会の中で、町単独の優遇措置等について協議していく。

4月25日の朝刊に「2050年に消滅可能性自治体として高島町が新たに該当」という記事が掲載されたが町長の思いは。

人口が減少する中

人口が減少する中にも、それぞれの地域において安心して暮らすことができる持続可能な地域社会の実現と魅力あるまちづくりに今後も取り組んでいかなければならないと思いを強くした。

犬の宮・猫の宮を基

点としたまちづくり

高安地区の「犬の宮」「猫の宮」は、日本でも珍しい犬と猫を祭る神社である。また「わんにゃん高島ベッ

ト祭り」「全国ペット供養祭」などの行事や「犬猫安らぎの郷公園」「高島石を使用した「納骨堂」などもある。このような有形、無形の地域文化財を生かし、さらに動物関連の学校や企業を誘致してペットと住みやすい魅力ある町づくりをしてはどうか。

犬猫安らぎの郷構想の目的でもある、ペットとの豊かな生活を享受するための共生社会づくり、本町が有する「有機農業」や「広介童話」のほか、新たに「犬猫安らぎの郷」を加え「命と心を大切にすまち」へのブランド形成、本事業を核とした他産業との

米粉普及拡大の可能性は

昨今、稲作経営の状況が悪化している。耕作放棄地が増え、緑豊かな田園風景が損なわれている。

一方、米粉の需要は増加しており、国や県でも利用拡大を推進し

ている。そこで、JAへの出荷よりも収益性が高い可能性のある「高島産米原料の米粉」を生産し、普及拡大を図ってはどうか。

自殺と教育システムの関係性は

10代〜30代の若者世代の死亡原因の第1位は、自殺である。諸調査により「自己肯定感」が低いと推察される。

また、全国の小中学生の不登校生徒数は約30万人で、ここ10年間増加し過去最多となっている。

現在の教育システムに問題があるのではないか。

学校では、文科省作成「生徒指導提要」で示す、「自己存在の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安心・安全な風土の醸成」の生徒指導の機能に留意して教育活動を進め、自己肯定感の醸成に努めている。



動画配信はこちらから

「消滅可能性自治体」該当に 対する町長の思いは

町長 持続可能な魅力あるまちづくりに取り組む



▲犬の宮・猫の宮を基点としたまちづくり

き・ら・り まほろば人

食文化を守り伝え、地産地笑を実現する



鈴木農林水産副大臣と萩原さん(右)

はぎ はら たくじゅう 萩原拓重さん(糠野目)

今回のきらり・まほろば人は、糠野目地区上町の萩原拓重さん。
萩原さんは米農家の4代目として生まれ、東京都の農業者大学校へ進学し、水稻を主とした複合経営を学びました。
就農後は水田を活用し水稻と大豆を中心とした農業を行っています。昨年まで山形県グッドハーベストコンクール山形県知事賞を5回受賞しています。

～萩原さんの活動～

農林水産大臣賞 受賞

国産大豆などの生産振興を図る2023年度全国豆類経営改善共励会（主催・JA全中、JA新聞連）にて、農林水産大臣賞を受賞しました。

契約栽培を主体に、大豆12.6haを作付けし約8割が納豆用で、主力の小粒品種「すずかおり」は10aあたり収量352kg、上位等級比率87%を達成、他の品種も県平均（134kg）の2倍近い収量となりました。

「秘伝豆」や赤大豆、白大豆などの品種も栽培し、菓子の開発・販売もしています。

たかはた農とぴあ

若手農業者（45歳以下）が企画する「たかはた農とぴあ」の実行委員長として、次世代が「農業をやりたい」と思えるような環境づくりのため情報交換、研修や交流を図っています。

農業をより身近に 一食の教育

JA青年部として、食育の一環で小学生の農業体験（じゃがいも、大根などの種まき～収穫）を行うほか、農園としても地元の学校給食に農産物を提供しています。

テーマは「地産地笑」

この言葉には、農業の生産基盤であり生活の場である地域を活性化し、地域の皆さんが笑顔になれるようにという思いを込めています。農業環境は年々厳しくなり思い通りにならないことが多々あります。しかし、仲間たちと懸命に、農業と食の価値が高まるよう、農業を笑顔で次世代へつなげるよう日々研鑽^{けんさん}しています。そして、「農業ってかっこいい」「将来性にあふれているよね」と言ってもらえるようになることが最高の喜びです。

委員長
副委員長
委員

編集委員

西金青武秋佐平
方子柳田葉藤
茂陸 正晶純
太夫貴隆子子誠

9月定例会を傍聴しませんか 9月10日(火)～27日(金)

本会議の傍聴は自由です。
詳しい日程は9/4以降町ホームページでご確認ください。
問い合わせ先 議会事務局 ☎52-4485